

「第4回 豊橋市都市交通計画検討委員会」議事録

○日 時 平成27年7月13日（月） 15時～16時30分

○場 所 豊橋市役所 西館7階 第1委員会室

○出席委員 別紙「出席者名簿」参照

○傍聴人 4名

○事務局 6名

〔会議資料〕

◆次第

◆出席者名簿

【資料1】平成26年度の検討成果について

【資料2】今年度の検討の進め方について

【資料3】目標達成に必要となる取組み及び戦略の考え方について

【参考資料】他都市の交通戦略等の策定概要

議 事

1. 開会

- ・各委員の自己紹介
- ・事務局の紹介
- ・竹内委員長より挨拶

2. 報告

(1) 平成26年度の検討成果について

- ・事務局より、平成26年度の検討成果についての説明が資料1に基づいて行われた。

〔質疑〕

なし

3. 議事

(1) 今年度の検討の進め方について

- ・事務局より、今年度の検討の進め方についての説明が資料2に基づいて行われた。
- ・引き続き事務局より、他都市の交通戦略等の策定概要についての説明が参考資料に基づいて行われた。

〔質疑〕

(委員)

- ・本日以降の流れの中で、例えば、属する業界において、これからの検討に資することができる分析や役立つデータがあれば、作業部会へ提案していけば良いのか。

(事務局)

- ・現状分析等のデータについては昨年度一定の整理をしてはいるが、今後の事業を考えていく上で役立つデータがある場合は提供していただき、検討の材料としていきたい。
- ・検討スケジュールとの整合については、個別に相談しながら進めていきたい。

(委員長)

- ・適切な資料等があれば、作業部会のタイミングを待たずに事務局の方にご一報いただきたい。

(委員)

- ・是非、そのようにさせていただく。

(委員長)

- ・他に意見がないようなので、「今年度の検討の進め方について」は承認とさせていただく。

(2) 目標達成に必要となる取組み及び戦略の考え方について

- ・事務局より、目標達成に必要となる取組み及び戦略の考え方についての説明が資料3に基づいて行われた。

〔質疑〕

(委員長)

- ・本日の議論に基づき今後作業を進めていく。色々と意見をいただきたい。
- ・はじめに、資料についての質問を受け付けたい。

(委員)

- ・1ページでは取組み、事業を戦略で結びつけてパッケージするとあるが、5ページでは戦略とパッケージ事業を設定した後に、事業候補が出てくるように読める。解釈としては、1ページの図の流れに捉われなくていいのか。

(事務局)

- ・今回、2ページでは「取組みの基本的な考え方」と「取組み」を整理している。取組みの基本的な考え方(キーワード)は、昨年度まとめた都市交通マスタープランの最後に整理した項目であり、その中のポイントとなるキーワードに基づいて、考えられる取組みをまとめている。それに関する具体的な事業を記載していないので分かりにくい面があった。
- ・事業については作業部会で並行して議論を進めている。ただ、現時点では時期尚早と考えて事業は示さなかった。
- ・戦略とパッケージについては、事業があり、それをまとめていく方法と、目指すべき方向を掲げ、それを達成するために必要な事業を考えるとといった方法があり、後者の方法で計画を作って行っていきたいと考えている。今回は、昨年度まとめた3つの基本方針、目標を達成するため、パッケージを考える上での戦略を5つ挙げ、効果的な事業のまとめ方の考え方と、その候補をお示しさせていただいた。これらについてご意見をいただきたいと考えている。

(委員)

- ・4ページの右側中段に交通結節点とまちなかの関係の図があり、その下の都市交通体系イメージ図では都市拠点と地域拠点が、まちなか＝都市拠点、交通結節点＝地域拠点と見えるが言葉としてはどう扱っていくのか教えてほしい。

(事務局)

- ・中心市街地周辺は都市拠点として考えている。地域拠点の中に交通結節点があると考えているが、地域拠点以外でも交通結節点となり得る所も出てくると考えている。

(委員長)

- ・都市拠点とまちなかは同じと考えていいのか。

(事務局)

- ・豊橋市駅周辺のまちなか＝都市拠点である。

(副委員長)

- ・まとめ方の問題とは思うが、基本方針と目標から5つの戦略がクロスして出てくるプロセスがよく分からない。目標を達成するための必要な事業が出てきてないように感じる。出来そうな事業をまとめて並べただけのように見える。昨年度の検討委員会で前回の都市交通マスタープランの再評価を行ったが、同じようなことになるのではと感じる。出来そうなことを並べるだけでは弱く、この目標でこの程度やるために何をすべきかを整理できると良い。これから5年、10年経った後に事業の進捗は評価出来たとしても、目標がどの程度達成できたかは不明となる心配がある。事業を並べる前に、この目標をこの程度実現するためにという整理が欲しい。

(事務局)

- ・基本方針と目標から5つの戦略の関連性が見えないという件については、目標を達成するためにどのような事業が必要かという質問にも繋がってくるかと思うが、現時点で明確な回答が出来ないので、今後アドバイスをいただきながら、まとめ方を検討していきたい。

(委員長)

- ・1ページの図でみると、取組みがあり、その取組みに応じて事業を出している。その事業の出し方が、目標を達成するための長期的な事業も挙げるべきであるが、今やれそうな事業を挙げているのだけではないかという点が、先ほどの意見である。事業をまとめてパッケージ事業を組立てる作業に「戦略」が絡んでくる。ところが、戦略が出てくる過程がはっきり分からない。2ページの取組みの欄を見ると、基本方針1と基本方針2の両方に必要な取組みもかなりあると思う。その辺りが無理やり割り付けているため、戦略を掲げる際の過程の分かりにくさに繋がると思う。取組みを複数の基本方針に属するもの、単独のものといった考え方で整理し直す必要がある。
- ・また、目標に対応した取組み、事業が十分出てきているのかについては、1ページの交通戦略の目的では前期・後期の区分の記載があるが、今回の取組みでは後期までかかって実施するものがあまり無いように思う。前期の取組みに集中し過ぎているので、先ほどの指摘に繋がっている。目標を達成するには、実施が難しいと思われることも挙げるべきではないかといった意見である。

(副委員長)

- ・評価指標に公共交通の利用者数や市民満足度といったアウトカム指標を設定し、それを良くするために何が重要かというものがない中で、関係ありそうな事業を並べているように見える。この事業を実施した場合に、その指標がどう変わるかまで繋げなければ、評価指標の向上に寄与せず、実施したというだけで終わってしまう。評価しようとすることにに対し、目指す状態を出す必要がある、その状態を実現するために何をやるのかという話になる。事業の提示だけでは、その繋がりが見えなくなる。

(委員)

- ・戦略とパッケージの考え方について、コメントさせていただきたい。パッケージで計画を策定することは、事業を効率的に進める上で重要であるが、戦略1、2、3が交通機能で分かれているように思う。ある交通機能の利便性向上を戦略的に進めることは重要ではあ

るが、パッケージで考える必要があるとは思わない。例えば電車だけ便利にしても乗継が難しいことや、目的だけあって手段がないなどの問題を改善するためにパッケージを戦略的に考えていくことであり、事業をうまく組み合わせることがパッケージ施策の考え方には必要だと思う。交通結節点で目的としている移動の対象と、バス路線の利便性の向上で想定している移動がちぐはぐであると、結局利便性の向上には繋がらないということも考えられる。公共交通の機能向上自体は大切ではあるが、もう少し対象を意識しながらパッケージを作ることが必要ではないかと感じた。このままでは戦略1、2、3はどれも公共交通の利便性を向上するだけのように感じる。

- ・事業候補について、意識改革は全てが戦略5ではないと思う。路面電車や鉄道の都市軸としての機能の向上には、市民の意識の向上が必要だと思う。市民が幹線交通を大切にするという豊橋市の強いイメージを持っていくことも重要と思うので、ブランディングも戦略1の中に入るべきであろうと感じた。

(委員)

- ・全体的な考え方として現状維持プラスが基本になっている印象を受ける。戦略1の特に市電については、増設も含めて大胆なことを考えても良いと思う。豊橋市の多くの市民が自慢するものは路面電車であるとの答えも出ているが、それに対する計画の事業候補が「赤岩口電停の交通結節点機能強化の検討」となっており、戦略1と3に出ている。それほど大きく取り上げられることであるのか理解がしにくい。交通結節点としてもっと大きいと思われる南栄駅は、駐輪場整備に留まっているので、何か赤岩口に特別な意識があるのかと感じる。路面電車をもっとPRし、増設するなどの大胆な考えがあってもいいと思う。
- ・「豊橋駅西口駅前地区整備の検討」はとても重要だと思うが、西口と東口を結ぶ人や自転車の交流について不足していると思われる。城海津の橋も非常に老朽化していることもあり、特に自転車で西口と東口を行き来する交流が中々できない。駅内しか通れないので西口と東口の交流が少ないとよく話を聞くので、それに対する事業が無いように思う。

(事務局)

- ・路面電車については、豊橋市のシティプロモーションの重要なコンテンツの1つとして位置づけている。今後、路面電車をもっと使いやすくするため、今回の資料では前期で実施したいと考える事業を数点挙げたものであり、ここに挙げた事業だけしか実施しないのではない。路面電車については昨年度の現状分析でも説明させていただいたが、老朽化など喫緊の課題が山積しており、まずはそれに対処していくことが必要と考えている。それと並行して延伸なども今後のまちづくりの方向性を踏まえて検討していくことになると考えている。いただいた意見をこの計画にどのように位置づけられるかは、今後調整をさせていただきたい。
- ・西口と東口を結ぶ路線についてはご指摘の通りと思うので、位置付け方や内容について、関係部署との協議を進めて検討していきたい。

(委員長)

- ・路面電車の発展形としてイメージアップを図りたいが、前期に主力事業が偏りすぎ、後期のイメージアップが出来ていないように思う。後期といえども、遠い将来ではない。後期

の5年間に検討を始めるといふ出し方もある。後期が終わる 10 年間に実施できることだけを位置付けるのではなく、「後期にはこんな夢が広がっている」といふ書き方もあってもいいと思う。

- ・自転車で歩行者を気にせずのびのびと利用できるような計画をつくることは、豊橋市ならではの計画として大切であると思う。戦略5で「歩行者・自転車・公共交通」と並んでいるが、それぞれ実施するのではなく、歩行者と自転車がバッティングしているので、歩行者も安心して歩け、自転車ものびのびと使えるようにすることが大事だと思う。

(委員)

- ・戦略について、戦略1、2、3など短時間で実施していくものと、戦略4のような中心市街地の活性化や、それに伴う都市機能の立地などの長い時間をかけて実施していくものが同じ時間軸で整理されている。例えば、まちづくりに関することについては、できる事業だけを実施して、本当に中心市街地の活性化に繋がるのか、あるいは居住誘導に繋がるかとなると非常に厳しいと思うので、アウトカム指標を設定して、長期的に見ていくということで整理した方がよいのではないかと。実施期間の短いものと長いものをうまく整理して進めた方がよい。

(委員)

- ・農村部でも特に海岸部の農家からすると、交通機関が全く無く、夜に飲みに行くことも出来ないため、何とかして欲しいという意見がある。豊橋は農業が盛んなまちであるが、農村部に住む市民には辛い状況になってきている。

(委員長)

- ・公共交通のサービス形態として、名古屋市では「ちょいのりバス」といふものがあり、それに対抗して豊田市では「ちょい飲みバス」といふものを打ち出し、飲食店が立地する拠点までの間をバスで送迎している例もある。事業所がたくさんある地区から飲食店が立地する拠点まで行くバスのお客はあるが、帰る客がまとまらないので路線として上手くいっていないらしいが、そういった考え方もある。
- ・5ページの個別推進事業がまだ不十分であり、今後議論の必要がある。2ページの取組みの中に、「公共交通空白地域の移動利便性の向上」とあり「地域生活」バス・タクシーの運行再編のことになるが、これは5ページのパッケージ事業2に入れる方がよいか、個別推進事業に入れ、過疎的地域全てに対応していく方がよいかが難しい。パッケージ事業2だけでは、幹線軸と繋がるところが中心となり、必要なところ全てをカバーするという形にはなりにくいので、そのようなことも考えながら作業する必要がある。

(委員)

- ・1ページの交通戦略の目的で、10年間の計画として前期・後期の区分があるが、どこかで見直し作業を入れる必要があるため、見直し時期について記載が必要と思う。
- ・また、同じく交通戦略の目的の中に「集約型都市構造の実現」と記載があり、これは都市交通マスタープランの中では説明されていると思うが、5ページでの戦略の整理ではしっくりこないため、この辺りの流れを分かりやすくした方がよい。

(委員長)

- ・今の意見は、コンパクトな地域づくりに繋がらず、取組みによっては拡げているように見えるという指摘であるので、気を付ける必要がある。

(委員)

- ・5つの戦略のまとめ方は現時点では論理的にピンとこないが、最終的にはこのような形でまとめていき、次の第5回の検討委員会では、基本方針や目標を達成するための評価指標と、戦略を進めることで目標が達成できるという点をもっと網羅的に記載され、まとまって見えるようになると考えている。
- ・今回は例示で事業が挙がっており、この資料だけだと伝わりにくい面もあるが、次の段階で目標と戦略をリンクさせた形にして、分かりやすくなるように努力していきたい。

(委員)

- ・感想であるが、1ページの基本理念から実施プログラムの流れに対し、5ページの事業候補が今すぐにも出来そうなものがまとまっており、膨らんでいく話がしぼんでしまったように感じる。2ページの取組みの中に丸印でそれぞれの項目があり、これ自体がすごく難しい話であり、ここから全ての事業が展開するような気がする。また、3ページの様に地域別で整理すると、また大変な作業になる。最後に5つの戦略としては手段別に整理され、スッキリした印象を受ける。今回の事業候補については前期分であると思われるが、今後、前期、後期の事業候補が多く出てきて最終的にまとめていく際には、最初に戻る話にはなるが、集約型都市構造の実現があり、少子高齢化により豊橋市がどうなるか、都市をどうするのかを考え、その部分で事業をきっちり整理していかないとまとまていかない。
- ・例えば、農村部に1人が住んでいた場合に、その人の交通をどうするのかという議論入っていきそうである。少子高齢化で人口が少なくなった時に、かなりセンセーショナルなものを捉えていかないとまとまらないと思う。
- ・参考資料の他都市では、政策的にコンパクトシティを色々な角度から推し進めており、その中の交通戦略が目に見えているので、乱暴な言い方にはなるが、あまり細かい議論をせずにアウトラインが出てくるようにすると整理がしやすいと感じている。5ページ目は分かりやすい説明だと思うが、事業候補を詰めていった時には、一度基本に戻らないとまとめ切れないのでは感じた。

(委員長)

- ・皆さんの意見を基に事務局での検討を進め、方針が変わることも含んだ上で、今回の議事についてご承認いただきたい。

4. その他

〔質疑〕

なし

5. 閉会

- ・事務局の瀧川都市計画部長から閉会の挨拶と、第5回委員会の開催日を10月7日（水）の14時からとすることの案内があり、会議は終了した。

以上